

教科別分科会 10月22日(土) 松原市立松原小学校

①国語教育	三野 和生(東大阪・成和小) 柴田美恵子(東大阪・枚岡西小)
<p> たしかで豊かな認識力と表現力を一人ひとりの子どもに育て、人間的発達をめざす国語科教育をどのようにすすめていくのか、交流しあって行きたいと思います。 なかでも、文学を文学として読むことを大切にしながら、教材研究のあり方や、指導方法等について話しあっていきたいと思います。説明文の指導についても交流しあっていきます。また、書くことの意味、読みあうことの意味をおさえ、子ども一人ひとりの課題や思いをどのように受けとめ、どのように書く力をのばしあっていくのか、交流しあっていきましょう。さらに、新学習指導要領の問題点を明らかにしながら、各学年新教科書の内容についても検討していきたいと考えています。国語科の本質にもとづき、子どもたちの基礎・基本の学ぶ力を育てる国語科教育のあり方を考えあっていきましょう。多くの先生方、とくに若い先生方の積極的な参加を呼びかけます。</p>	
②外国語教育	長谷川和久(吹田・片山中) 鎌田 栄一(府高・狭山高) 谷浦 健司(府高・箕面東高)
<p> すべての子どもたちに外国語を学ぶ喜びと平和な未来を開く力を！このテーマにもとづき、「何を」教えるのかを明らかにし、「知りたい」「わかりたい」という子どもたちの願いにこたえる豊かな授業の創造をめざして、次の様なことを話しあい、交流します。</p> <p>①学習指導要領や教科書の批判・検討。よりよい教科書・教材とは？②なぜ、何のために外国語を教え、学ぶのか③外国語学習を通して、異文化を理解し平和で豊かな心をどう育てるのか？④小学校英語のあり方と実践を交流。⑤自己表現活動で楽しい授業をどうつくるのか。⑥映画や歌などを活用した授業とは。⑦生徒と創る「楽しくわかる」授業のあり方。</p>	
③社会科教育	平井美津子(吹田・吹田第一中) 浅井 義弘(府高・泉陽高)
<p> 科学と事実に基づき、地域の主人公としての子どもを育てる社会科教育をすすめます。社会科の学力とは何かをおきらかにし、地域の実態と子どもの発達段階をふまえた実践を研究・討議します。①学習指導要領の問題点を明らかにし、科学的な認識を育てる社会科授業について交流します。②平和と民主主義、人権を基調にした憲法学習のあり方を探ります。③子どもが暮らし地域の様子・歴史の掘り起こしをもとにした実践を研究します。④分かれる授業や教材のあり方を交流します。⑤公立高校入試問題の批判と分析をすすめます。⑥若い先生方に、明日からの授業づくりの参考になるような実践の交流・教材の交流を行います。⑦小学校・中学校で使われている（使う予定の）教科書の検討を行います。</p>	
④算数・数学教育	何森 真人(岸和田・春木小) 阪口 宗義(府障・堺聴覚支援)
<p> わかってできる楽しい授業をしたい。教員なら、誰でもそんな願いをもっているのではないのでしょうか。しかし、現実には、朝の会からの計算練習、時間に追われながらすすめる授業と、難しい条件が山積みです。そのような状況の中でも、大阪には優れた授業実践がたくさんあります。困難な状況のなかで、学ぶことの楽しさを実感できる授業をどのように創りだせばよいのか？問題点が多い改訂学習指導要領を乗り越える工夫など、参加者の皆さんの知恵を出し合い、実践交流しましょう。</p>	
⑤理科教育	鈴木 豊久(大阪市・大道南小) 西木 茂(吹田・第六中) 澤田 史郎(府高・池田高)
<p> 「理科の授業をどう組み立てたらよいのか」「自然と科学の教育を学び合う場がほしい」という要望にこたえる分科会をめざします。授業づくり、観察の工夫や実験紹介など教育実践にすぐに生かせる内容も取り入れたいと思います。また、学習指導要領や教科書などの検討を行い、子どもの自然認識と発達に合った理科教育を考えていきたいと思えます。</p> <p>昨年度は小中高8本のレポート報告があり、生物・物理・化学・地学の各分野の実践について検討しました。また、小学校の専科の経験を生かした理科の苦手な先生に向けたレポートもありました。今年度も様々な分野からのレポートを検討し、「すべての子どもたちに豊かな自然認識をもたせよう」をめざして取り組みを進めています。日々の教育実践での悩みや工夫を持ち寄り、目の前にいる子どもたちの課題が見えてくるようにしたいものです。多くの先生方、特に若い先生方の積極的な参加を期待します。</p>	

⑥美術教育 松下 順一(交野・第一中) 谷口万起子(門真・第一中)

美術教育は、人格形成にとって大切な基礎基本の教科です。生きるよろこびと豊かな人間性を育む表現とは何かを学び合ひましょう。本当の美しさ・真実が分かる感性を育てる美術教育をめざしましょう。
①生活実感を大切にしたりくみ＝実態や発達を考え、生活実感に根ざした表現で豊かな感性を育む指導について考える。
②手仕事を大切にしたりくみ＝発達保障の観点から手仕事の役割を見直し、主体的につくる子どもたちを育てる指導について。
③鑑賞＝美術作品との対話や指導について。



⑦音楽教育 安宅 由実(南河内・久野喜台小) 覚道 康代(大阪市・天下茶屋小)

東日本の大震災や大阪での「君が代」起立強制条例などを通じて今、教育のあり方が問われています。
小学校では新しい教科書が採択され指導が始まりました。音楽教育に携わる者として心とからだが一いつになってこそ、発揮される「音楽の力」を子どもたちと味わっていきつらいなとかんがえています。多種多様な文化、表現活動があふれているなか、子どもたちとつくりあげていく音楽活動はしっかりとした教材選択と教材分析のうえで、学習活動に織り込んで行けたと思います。この分科会では、日頃の子どもの様子を交流しながら、自分たちの実践を語り合い、音楽の楽しさを実際に体感し、音楽の世界を深めて行けたらと考えています。

⑧技術・職業教育 赤木 俊雄(大東・諸福中) 川口 整(府高・和泉総合高)

生徒がやる気の出る教材、やりこたえのある教材、保護者に見せなくなる教材を工夫しましょう。日頃の実践を交流し、皆で話し合ひましょう。
研究課題は以下の通りです。
①小・中・高校における「技術・職業教育」の位置づけを明らかにします。
②持ち帰りたくなるような教材をどう工夫するのか。
③工具を正しく使うことを学ぶ工夫をします。
④都市部における「栽培」を考えます。
⑤技術教育の継続性を持つための校種間の連携、地域との連携をすすめます。
⑥高校の職業教育は、改編のなかでどう変化したかを検証し、新学習要領にむけたカリキュラム見直しを同進めるかを考えます。
⑦高校での職業教育の意義とその位置づけについて学習します。
⑧エネルギー変換と原発について学習します。

⑨家庭科教育 奥村登志美(豊中・桜井谷東小) 新谷仁奈子(私学・英真学園高)

①父母・家庭との連携を深めながら、科学的認識や基本的技能を育てる教育内容を考え合ひましょう。
②日本の農業生産と関連づけた食料自給について学び合ひましょう。今回の大震災と原発事故と関わる食の安全についても考え合ひたいと思います。
③主体的な学びへつなげる教材の研究と全ての高校で男女共学家庭科教育をさらに推進していきましょう。

⑩体育・健康・食教育 上山野小百合(八尾・龍華小) 若杉 雅代(私学・東海大付属仰星高) 速藤 裕子(吹田・第一小)

貧困・格差の拡大が進み、「生きにくさ」を抱えて不登校、荒れなどの課題が増え続けています。それに伴い、コミュニケーション能力の不足も問題となる子どもたちの状況が広がっています。また食の安全の問題も不安な要素がますます広がっています。体育・健康・食教育のそれぞれの分野から問題を出しあい、子どもたちを取り巻く社会のあり方を見つめ、「子どもたちの心と体のゆがみに、どう向き合っていけばいいのか」の実践を明らかにしていきます。今回は、東日本大震災・原発事故から、健康問題を考え、未来のエネルギーのあり方を学び合う模擬授業も提案します。

子どもをとり巻く状況は、非常に厳しくなっけてきています。「児童虐待」「無気力」「いじめ」「非行」「貧困からの荒れ」など、現場での困難な状況が次々に報告されています。そんな中、東日本大震災の被災者救援にたちあがった子ども・生徒の報告が相次いでいます。学校や児童会・生徒会で義援金や物資を送ることが多面的な活動として取り組まれました。被災者に心を寄せる子どもたちのすばらしさが光っています。さまざまな困難ななかでも、健気に未来をつくろうとする子どもたちのため息、あえぎ、喜びをみつめ、考えたいものです。また、学校現場や課題を克服するには、子どもと教師・大人の信頼関係を作り出すことが大きな力となります。とりわけ、仲間との信頼関係をより大きくするのが「自治活動」です。子どもたちの今の姿、教職員の喜びと悩み、保護者の願いなど持ち寄りましょう。

問題別分科会 10月30日(日) 私立千代田高校

⑫発達・評価・学力問題 金井 敬之(泉大津・旭小) 川岸 雅詩(大阪市・喜連東小)

提出されたレポートをもとに、多くの教師や保護者に関心が高い「学力づくり」「学力低下」「学級困難」の問題などを交流します。また、習熟度別クラスや「大阪府学力テスト」「新学習指導要領」の問題点についても話し合います。
明日からすぐに役立つ具体的な実践を、その根拠にある子どもの発達のみちすじや子どものとらえ方とともに学べるようにします。
子どもを取りまく状況がますます悪くなるなかで、私たちの実践はいつもうまくいくとは限りません。しかし、そのような現実の中にこそ、今日の子どもと教育の課題があります。やさしく、わかりやすい言葉で話し合いが進むように、分科会の運営を心がけます。青年教職員や父母の悩みに応えたいと思っています。
多忙な日々の中で、実践をまとめて下さる報告者の皆さんや、貴重な休日に分科会会場に足を運んでくださる参加者のみなさんが、参加して良かったと感じてもらえるような温かい分科会にしたいと思っています。

⑬障害児教育 大島 悦子(大阪市・高倉小) 中元 正文(府障・豊中支援) 河野 早苗(市障・難波特別支援)

「特別支援教育」5年目を迎え、個別の指導計画や支援計画などの押しつけが強まり、職場は管理強化や多忙化が進んでいます。そのようななかでも「権利としての障害児教育」を確立しようと実践をすすめてきました。
父母や関係団体と共にすすめてきた教育条件整備運動が実を結び「四分校」が開校しましたが、子どもたちが安心して学校生活を送れる教育環境にはなっていません。しかしながら、困難な状況の中でも運動を進めてきたことに確信をもち、子どもたちや父母の願いを大切にしながら、すべての障害児や援助を求めている子どもたちの発達を保障する実践や運動について語り合ひましょう。また、各職場や地域での状況についても交流を深めましょう。

⑭幼年教育と保育問題 吉永 真弓(大阪市・長吉幼) 下中真理子(堺・東陶器幼)

①子どもの家庭や地域でのくらし、保育所・幼稚園・学校での実態を出し合い、子どもを取り巻く問題点を明らかにします。
②レポート内容を中心に子どものよりよい発達を保障していくために、どのような教育をしていけばよいのかを学び合い、幼年期の発達課題や、接続問題を明らかにしてします。
③小学校の基礎学力問題、保育所・幼稚園の統廃合・民営化、預り保育、延長保育などの問題点を話し合い、父母、地域の人々と手結び、改善するための方向を見出していきます。
④父母、保護者の実情や願いを率直に出し合い、「子育て支援」から「子育て共同」への方向を探ります。

⑮思春期・青年の進路 米山 幸治(府高教・本部) 日高 清広(寝屋川・第三中)

中学から高校及びそれ以降の、いわゆる思春期・青年期は、様々な課題を抱えつつ、将来の進路を見据え自立した大人へと繋げていく時期です。生徒、青年たちは懸命に成長しようとしており、周囲の大人たちはそれを支えています。この時期の生徒、青年たちのリアルな姿を交流しながら、その成長と発達を支えるとりくみを出しあい、深めあいましょう。また、教育行政が果たすべき役割を明らかにしながら、教育運動の方向を確かめあいましょう。
公立高校の授業料無償、私立高校生への就学支援金支給など、子どもの「学ぶ権利」を保障する運動が前進させてきました。一方、「進学指導特色校」などで競争をあおる橋下「教育改革」「教育こわし」によって、子ども・生徒の成長・発達がいつそう阻害される恐れがあります。「多様化・特色づくり」など、「教育改革」の実態や影響を明らかにするとともに、入試や進路保障の現状を持ち寄りましょう。

⑰-Ａ人権と教育 中野 勉(市障・恵智特別支援) 三輪 浩一(豊中・桜塚小)

児童・生徒の基本的人権を守り、育てる教育実践や教育運動を交流したいと思えます。
府教委は「部落問題学習」に関する認識のゆがみを作りだし、廃止された副読本「にんげん」にとりあげられた教材を取り入れた「人権教育教材集・資料」を新たに作成しました。大阪府人権教育研究協議会と行政が一体となって、同和問題に関する認識のゆがみを、さらに広げようとしています。
私たちがすすめる人権の教育は、教育の自由、研修の自由が保障された上で、子どもたちに確かな学力と生きる希望を育む認識を育てるものです。
憲法と子どもの権利条約が生きる教育をすすめます。各職場でおこなわれている多様な教育実践を持ち寄り、交流していきましょう。

⑰-Ｂ男女平等の教育 岩根裕紀子(吹田・豊津第一小) 奥野喜美子(大阪市・林寺小)

小学校の教科書が昨年改訂指導要領のもとで採択されました。今年は中学校教科書が採択されます。教科書もページ数がふえ、一冊の詰め込み強化です。教科学習に学校現場は追われ「性教育や男女平等教育」など、じっくり実践をつみあげていく時間はますます取りにくい状況になっています。バックラッシュの動きをこのままでは押しとどめることはできません。
現場では、命の大切さを学ぶ「性教育」や家族の問題、ジェンダー問題など、粘り強く取り組みを進めておられることでしょう。子ども達や父母の願いや要求をもとに、進路・労働・家庭・性に関する課題を出し合い交流しましょう。子どもも大人も人間らしく豊かに生き、成長できる社会を作るために学びあいましょう。

⑱平和と国際連帯の教育 要 美奈子(泉佐野・書記局) 原 幸夫(府高・河南高)

本分科会では、次のことを基本的に実践の交流をはかって来ました。
①聞き取り・読み物教材・地域にある戦争を伝える事物などを通し、戦争の実態を具体的に学ばせる。
②被害・加害・反戦抵抗などの側面から過去の戦争を学習し、歴史の真実をゆがめる動向にも関心をむける。
③核兵器・米軍基地・自衛隊・日米安保条約などをテーマに、平和や生活の現状と課題を読み解く。
④多様な民族や文化への理解を通し、国際連帯の思いを育てる。
今、教育現場では平和教育の困難性が生まれており、そのとりくみが減ってきているのではなからうか。「とりくんだがうまくいかない、アドバイスを」「どこから手をつけたらいいのか、教えて」などの交流もすすめたい。

⑲-1 民主的學校づくり 福崎 誠次(寝屋川・啓明小) 守山 禎三(市障・光陽特別支援)

橋下府政のもとで、様々な学校現場への押し付けがされてきました。様々な問題を抱える学校にさらに困難をもたらしている教育行政は、今のままでいいのでしょうか？
学校は、子どもたちの「ゆつくり先生に話聞いてほしい」「授業を楽しくしてほしい」という気持ちや、「何でも相談できる学校にしてほしい」という保護者の願いや、「子どもたちに学力をつけたい」「子どもたちが喜ぶ顔が見たい」という教職員の願いが生かされることが必要なのではないのでしょうか？子どもたちの意見が生かされ、保護者の願いがかない、教職員の思いが生かされる学校づくりはどうかは実現できるのか、それぞれの現場での経験や実態を交流しながら、参加と共同の学校づくりについて話し合ひましょう。

⑲-2父母・地域住民との共同 馬場野成和(大阪教育文化センター) 前田 光男(府高・佐野高)

「貧困」「格差」が子どもと父母・保護者のくらしを壊し、深刻な状態になっています。
国民の声によって高校授業料無償化など父母負担の軽減が進みましたが、橋下知事の「改革」で教育予算が減らされ、大阪では「先生がいらない!」という異常な事態も起こっています。また上からの「学力」競争が強制され、学校教育が壊されようとしています。
これらに対し、生徒・保護者・教職員・府民が「くらし・子ども・教育を守れ」「子どもがのびのびと学べ人間として成長できる学校を」の声をあげ、現状認識は正しいのか。どうやって広げていけばいいのか、本気で知恵を出し合う場にしたいい！
分科会では次のような話し合ひをします。
①子ども・生徒・保護者の願いを率直に出し合ひましょう。
②「こんな学校を、こんな教育を望みます」の声を出し合い、どうつっくっていくのかを話し合ひましょう。
③「貧困・格差・くらし破壊」をはね返し、「いのち・くらし・教育を守る」運動をどうつっくっていくのか交流し話し合ひましょう。